

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2008. 3. 31
第4号



多気北畠氏遺跡第30次調査 東西石列(東から 正面が北畠氏館跡及び詰城跡)

最近の調査から

多気北畠氏遺跡第30次調査

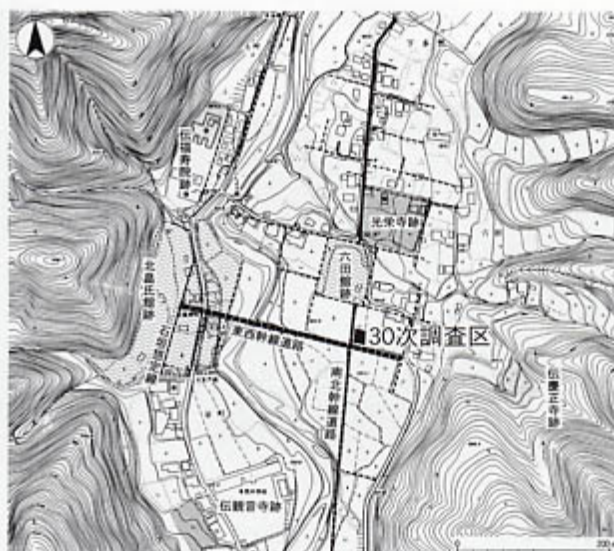
(上多気六田地区第4次調査)

市では、国史跡 多気北畠氏城館跡とその関連遺跡の解明のため、学術調査を実施しています。平成19年11月から平成20年1月にかけて、津市美杉町に位置する多気北畠氏遺跡の第30次調査を実施しました。

今回の調査地は、館跡とは八手俣川を挟んだ対岸にあたる上多気六田地区です。昨年の29次調査に続いて当地区における4回目の発掘調査にあたり、館跡を中心とした地割の存在や町並みの様子の確認を目指しました。今回の調査面積は約370㎡です。

調査では、3棟の掘立柱建物のほか、想定されていた東西幹線地割に沿う石列が、調査区南側で検出されました。この石列は、幅0.6m、調査区内で検出された長さは18mで、両側に面を持った石を並べ、その間に栗石くりいしが積みられています。

また、調査区の北側では、この石列と方位が直交する石列も検出されました。後世の水田耕作などにより削平されているため、上部の構造はわかりませんが、これらの石列は土地を区画する役割を持って作られたものと考えられます。



調査区位置図 (1:10,000)



調査区全景 (上が北)



方形の石組 (北東より)



焼土土坑 (南より)

今回の調査地の周辺は、館跡を中心に東西方向に伸びる幹線地割と、それに直交する南北方向の地割の存在が想定されており、30次調査においてその方位に沿った遺構が初めて検出された点が注目されます。

また、調査区西側では溝がついた方形の石組や、井戸、集石遺構も確認されました。今回の調査で発見された遺構は、いずれも出土した遺物などから16世紀代のものと考えられます。

このほか、調査区のほぼ中央には、5 cmほどの厚さで焼土が広がっており、その中や周辺から刀装具の鋳型8点や、取瓶、埴塼、砥石、鉄滓など、金属の加工に関する多数の遺物が発見されました。焼土や炭の詰まった土坑も2基検出されており、今回の調査地とその周辺において、金属製品の加工が行われていたことが確実となりました。

刀装具の鋳型は目貫（刀の柄に取り付ける装飾金具）や筭（髪を整えるための道具）のものとみられ、非常に細かい文様が刻まれています。目貫・筭は、小柄（小刀）とともに

に「三所物」と呼ばれる日本刀の付属品で、中世期の刀装具の鋳型の出土は全国的にも珍しいことから、当時の金工技術を知る上で貴重な資料といえるでしょう。これらの鋳型は何らかの事情により使用されなかったとみられ、そのほとんどが未使用の状態ですが、上多気六田地区に刀装具の生産ができる職人がいたことが明らかになりました。

今回の調査で出土した鉄滓や、取瓶などに付着した緑青などからは、鉄の加工と銅製品の加工が同じ場所で行われていたことがわかり、多気北畠氏遺跡における手工業生産のあり方を知る資料が得られました。炉跡は検出されていませんが、今後の周辺の調査により発見される可能性があります。

30次調査で発見された遺構・遺物は、多気北畠氏遺跡の後期段階（16世紀以降）のものがほとんどで、それ以前のは発見されませんでした。今後も多気北畠氏遺跡の調査は計画的に実施する予定であり、館跡とその周辺における土地利用のあり方や変遷が明らかになることが期待されます。（熊崎 司）



金属加工関係遺物（1～3 鉄滓、4～8 取瓶・埴塼、9～13 鋳型、14・15 砥石）

平田古墳群 (安濃町 妙法寺・今徳)

平田古墳群は、安濃川の支流である穴倉川右岸、長谷山北麓の通称「平田山」と呼ばれる標高約60mの丘陵上に位置する古墳群です。

平田古墳群では、昭和49年と昭和59年～61年の2度にわたり、住宅団地造成に伴う発掘調査が安濃町教育委員会によって行われ、古墳時代後期の古墳75基が検出されています。

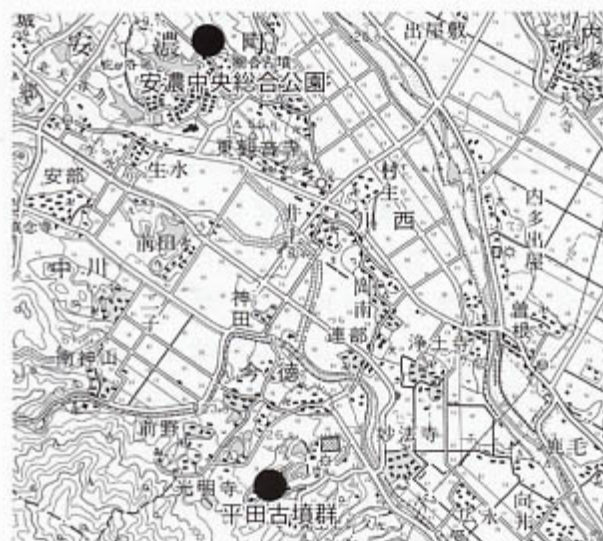
この古墳群は、概ね10m前後の方墳と円墳で構成され、埋葬施設には木棺直葬、横穴式石室、小石室があります。古墳のほかにも土坑墓が46基検出され、埋葬の形態はバラエティーに富んでいます。

墳丘や埋葬施設からは、須恵器や土師器のほかに、鉄製の武器や農耕具、滑石製やガラス製の玉類などが出土しました。特に14号墳からは銀象嵌円頭大刀(市指定文化財)が出土しました。

この調査で発見された古墳のうち、12号墳は磚槨式横口式石槨という四角石を積んだ珍しい石室であったことから、安濃中央総合公

園の一角に移築保存されています。

また、団地内の北公園には30・31・74・75号墳、南公園には3～6・36・37号墳が現地保存されています。(田中秀和)



遺跡位置図(国土地理院『津西部』 1:50,000より)



安濃中央総合公園に移築保存された平田12号墳(東から)



平田古墳群遠景 (北東から)



現地保存されている平田30・31号墳 (東から)

雲林院青木遺跡出土の双耳壺

今回は、津市芸濃総合文化センターの津市芸濃郷土資料館で展示公開中の雲林院青木遺跡出土の双耳壺を紹介します。

この壺は、中津式土器と呼ばれる縄文時代後期初頭のもので、口の部分が欠けていますが、「く」の字を呈する胴部は完存しており、胴部に張り出した一対の瘤状の突起（耳）を刺し貫くようにして縦方向の紐通し孔があけられています。

器面を覆う文様は、この時代に流行した磨消縄文と呼ばれる手法のもので、ヘラなどで刻んだ太い沈線で四つの渦巻き文を描きだし、沈線内に縄文を充填させて文様を完成させています。さらに、置くと見えなくなる底面にも、なぜか文様が施されています。

さて、この壺は、土坑（大地に掘った穴）の底から単独で出土したものです。口の部分は意図的に打ち欠いて取り払ったようで、供え物として埋められた可能性が高いと考えられます。その場合、この土坑は単なるゴミ穴などではなく、お墓など何らかの儀礼に関係したものと考えられます。

口の部分を欠くとはいえ、全体形がわかる双耳壺の出土は全国的にも珍しく、しかもこの壺の場合は、出土状況からその使用形態までも推察できる事例であることから、縄文時代の研究にとって極めて貴重な資料として注目されています。

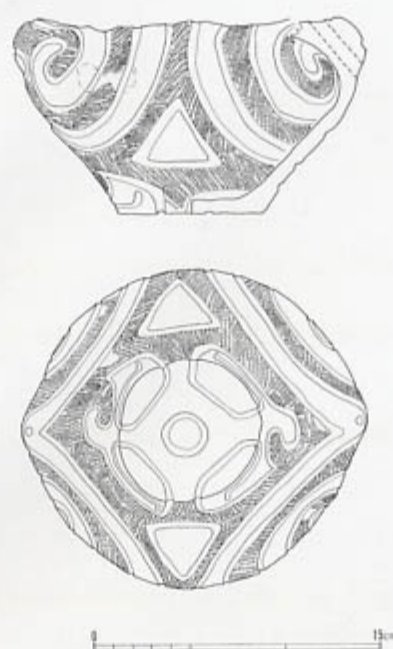
雲林院青木遺跡の周辺には、早期の押型文土器が出土した北奥遺跡、中期末の石組み炉をもつ竪穴住居が検出された大石遺跡など、当地を代表する縄文時代の遺跡が所在しており、雲林院青木遺跡を含む錫杖ヶ岳山麓の台地一帯は、縄文時代の生活にとって恵み豊かな地であったと考えられます。（藤田充子）



遺跡位置図(国土地理院『棕本』 1:25,000より)



雲林院青木遺跡出土双耳壺



遺物実測図 (1:4)

埋文センターこの1年

平成19年度日誌抄

4月19日《普及》出張講座(櫛形小学校 21名)
 4月26日《見学》戸木小学校 32名(久居分室)
 4月27日《見学》神戸小学校 53名
 5月16日《閲覧》稲葉5号墳出土遺物等(鈴鹿市考古博物館)
 5月17日《見学》岡本老人クラブ 18名
 5月30日《見学》三重大学附属養護学校 9名
 6月1日《調査》亀井遺跡第3次発掘調査(8月27日まで)
 6月7日《見学》村主公民館 14名
 6月12日《普及》出張講座(芸濃町内小学校 49名)
 6月21日《閲覧》高松弥生墳墓出土遺物等(三重県埋蔵文化財センター)
 6月29日《見学》鈴鹿国際大学博物館学講座 4名
 7月1日《貸出》稲葉5号墳出土遺物等(9月15日まで)
 (鈴鹿市考古博物館)
 7月5日《貸出》川北城跡出土遺物等(7月20日まで)
 (鈴鹿国際大学博物館学講座)
 7月11日《貸出》坂本山6号墳等写真(三重県埋蔵文化財センター)
 7月19日《見学》村主公民館 14名
 7月26日《閲覧》長遺跡出土遺物(個人)
 8月6日《調査》中蔭遺跡第4次発掘調査(9月28日まで)
 8月16日《閲覧》善応寺古墳群出土遺物等(松阪市文化財センター)
 8月18日《調査》亀井遺跡第3次発掘調査現地説明会 40名
 8月23日《見学》市民大学久居学級 28名(久居分室)
 8月27日《貸出》高松弥生墳墓出土遺物等(10月31日まで)
 (三重県埋蔵文化財センター)
 8月30日《普及》インターンシップ研修 1名
 8月30日《見学》三重大学国際交流センター 13名
 8月31日《見学》夢窓苑デイケアセンター 20名
 9月4日《閲覧》メクサ3号墳出土遺物等(個人)

9月27日《調査》中蔭遺跡第4次発掘調査報告会(大里小学校 140名)
 10月3日《調査》多倉田遺跡第3次発掘調査(10月9日まで)
 10月4日《普及》南が丘小学校選択教科講師
 10月9日《見学》新町南園老人会 30名(多気北畠氏遺跡調査分室)
 10月11日《普及》南が丘小学校選択教科講師
 10月16日《貸出》善応寺古墳群出土遺物等(12月20日まで)
 (松阪市文化財センター)
 10月18日《閲覧》四ツ野B遺跡出土遺物等(個人)
 10月30日《閲覧》君ヶ口古墳出土遺物(個人)
 11月5日《調査》遺跡詳細分布調査(2月29日まで)
 11月7日《閲覧》薬師谷古墳群出土遺物等(個人)
 11月7日《見学》久居保健センター 22名(久居分室)
 11月9日《調査》多気北畠氏遺跡第30次発掘調査(1月31日まで)
 11月15日《見学》文化振興審議会委員 8名
 11月22日《見学》奈良女子大学附属小学校 12名 (多気北畠氏遺跡調査分室)
 11月27日《見学》伊勢平氏研究会 20名(久居分室)
 12月5日《貸出》北畠氏館跡出土遺物写真(三重県史編さん室)
 12月10日《普及》多気北畠氏遺跡体験発掘(美杉南小学校 14名)
 12月26日《調査》多気北畠氏遺跡調査指導委員会
 1月11日《閲覧》向山遺跡出土遺物(個人)
 1月12日《調査》多気北畠氏遺跡第30次発掘調査現地説明会 75名
 1月16日《普及》寿大学講師(豊里公民館 30名)
 1月23日《普及》寿大学講師(豊里公民館 30名)
 2月7日《見学》草生公民館 17名(久居分室)
 2月16日《普及》考古学講座 23名
 2月18日《閲覧》下川遺跡出土遺物等(個人)
 2月22日《閲覧》四ツ野B遺跡出土遺物等(個人)
 2月23日《普及》考古学講座 24名
 3月1日《普及》考古学講座 22名

編集後記

今年度も後わずか、この日誌抄を記しながら、この一年に思いを巡らせています。

それにしても、今年度は季節にメリハリがありました。猛暑にみまわれた夏の発掘調査、小雪舞い散る冬の工事立会、これぞ現場の醍醐味とでも申しましようか・・・(笑) (編集子)

発行日：平成20年3月31日
 編集発行：津市埋蔵文化財センター
 〒514-0058
 三重県津市安東町1225
 TEL 059-229-0210
 FAX 059-229-4601
 印刷：森田印刷株式会社